
past of layer

ウッチー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

past of layer

【Nコード】

N5098D

【作者名】

ウッチー

【あらすじ】

適当に人生を過ごすコンビニ店員。彼の勤めるコンビニには名物客がいる。コンビニ店員と名物客からの視点で見る物語…

現在・過去・未来

『これ…美味しい…?』

少女は工場で量産されているおにぎりを持って言った。

…はあ？何言ってるんだこの娘は…だいたいお前はいつもコレを買ってるだろ。

『さあ…？食べたことないからわからないですね』

『食べて…。』

…はあ？オレは職務中だぜ？（まあ…バイトだが 笑）

『さすがに仕事中は…』

『そう。』

レジに商品が置かれる。

…って、結局いつも通り買うのかよ。

細く、赤い光がコードを読む。ピッ…

『315円になります。』

…毎回だが、金額ピッタリお支払いだな…

この少女は毎日やってくる（時間はランダムだが）。毎回105円

を3品。イヤでも覚えてしまう。
だが…理由はそれだけじゃない。
何より格好が目立つ。
毎回『なにかのコスプレか…?』と思うような格好をしている。
ここは東京・秋葉原でも、大阪・日本橋でもない。地方都市に行く
には2時間ほど掛かる片田舎だ。ほんと目立つやつだ（良いお客だ
が笑）。

『これ…美味しい?』

気まぐれで聞いてみた。

何で聞いたのか私にもわからない。

ただ…本当に気まぐれ。

……あつ。

…またレジこの人。行くときいつもこの人なんだけど…しかも…ま
た『変なヤツ』みたいな目だし。

『私…変ですか?』

彼は『ビクッ』と驚く。同時に目が泳ぐ。沈黙のまま、レジ袋を持
つ私を見る彼。何も反応しない、固まった彼を見て…私は店を出た。

『私…変ですか？』

話したことがない少女に聞かれたオレはどう答えりゃいい？

『……………』

…黙るしかないだろ。

ただ、少し心が見透かされた感じで…

うん…何だ？心地よくは無かったな（汗）。

…知らない間に帰ってやがるし。

何がしたかったんだ？アイツは…

それから数日間…謎の少女（仮）は店に来なかった。

ああ…何でオレが毎日ほほバイトに入ってるのか、ツツコミがくるだろうが…

あれだ。某ハンバーガーチェーン店の人件費削減を支えるような職種。

高校入学時には夢やら希望やらあったんだが…何も目標のない友達のおかげで、今やフリーター。笑

テキトーに働き、イヤだったらバイトだから気軽に辞めれるしな。

流石に、コンビニじゃ『夢』は売ってないな。笑

あの謎の少女（仮）。

どうしてるだろうか？

いや…誰でも気になるだろ？あんな不思議なやつ…滅多にいないし。

…そういえば、なんだか…あの店入りにくくなったな…

あの店員さんの…変な物を見るような目…

みんな私をそう見るんだ…

だよな…私がこんな格好してるからだよね…。

ああ…また他人に迷惑かけてるのかな…？わたし…

『うつ…うつ…うつ…』

……

…やっぱり来ねえな。

かれこれ一ヶ月が経った。

謎の少女（仮）はまだ店に来ない…

…バイト、やる気でねえ…

『今度来たら…謝ろっ…』

…ッ！来た！

格好は変わってるが…あの顔立ちは…！
ん…？ちよつと待て…

オレは驚いた。

と同時に彼女の下で頭を下げていた。

『すまん…！』

『……………何？』

『いやっ…何も知らず冷たい目で見たと思っから…すまんっ…！』

『貴方が初めて…』

『えっ…？』

『貴方が初めて…謝ってくれた。みんなは冷たい目で見ただけ。貴方が初めて。』

なんて力の無い声…

元々細身だった彼女が、目の前は彼女は枯れ木のように萎れている。
聞くと…コンビニに来なかった期間…あまりご飯を食べなかったら
しい…

すまない…オレのせいで…

オレは知らずに言葉にしていた。

『…』

本当に力の無い声。

ああ…オレに何か出来ないだろうか…？

『すまん…！オレに出来ることなら何でもする！何かお詫びをさせてくれ…！』

『じゃあ…』

『じゃあ…？』

『携帯の番号を…』

そして…謎の少女（仮）とコンビニ店員は出会った。
…なんてな。

彼は優しかった。

あの出来事から数週間…毎日メールをくれた。

嬉しかった。

心配してくれていると思う反面…

今は謝罪の念でやっている。どうせ…またこなくなる…貴女（私）は一人なの…

もう反面。
ピ。ピ。ピッ

また彼から。

件名

(本文)

やつ(*^-^*)

今度よかつたらメシでも行こう(^o^)
食べたい物とかある？

件名

RE:

(本文)

うん。貴方が食べたい物でいい。

本当はあんまり行きたくない…。

断れない…。

わたし…イヤな女。

この辺りで…美味しい飯屋…無いな。
遠いけど…仕方ないか…。

これは昨日の事。

駅で待ち合わせ、駅から地方都市へ向かう。

『……………』

『……………』

沈黙が続く…。

正直…気まずい。

おっ…ナイスタイミングで到着だ。

『まだご飯にや早いから…ちょいブラブラしよっか…』

『…うん。』

これは…周りから見ればカップルなのか？

ちっとも楽しそうじゃない彼女。

すれ違う奴らは『そうか…喧嘩の後か…』などと思うだろうが…

そんないいもんじゃない…

正直…今オレは左隣にいる謎の少女（仮）の事が好きだ。

…彼女はどうかなんだろう？

そんなことを考えながら…ふと隣を見る。

……………

『あゝあゝあゝ……………んっ……………っ……………っ……………っ……………っ……………』

……！???

ナンド？

ナンド？

ウソ…ウソ…ウソ…

何デ…？

ワタシノ前カラ消エタハズ…

マタ…

マタ…ワタシ…何カ悪イコトシタノ？

マタ…殴ラレルノ…？

死ニタイ…

消エタイ…

誰カ助けテヨ…

ドウセ…誰モ…助けテクレナイ…。

私ハコノ世ニ必要ナイ存在…。

.....

人がざわめく中……

一つの奇声。

震える、青白い唇。

冷や汗をかきながら……視線がおかしい……

がたがた震え出す華奢な身体。

.....

雑踏の中……彼女は倒れた。

啞然としてるだけのオレ。

数分後……救急車が来た。

乗り込み、事情を聞かれるオレ……。

『わかりません……彼女がいきなり……』

そして……

診察の結果…

彼女は入院することになった。

極度のストレスからくるショック状態。

医師はそれしか言ってくれなかった。

理由…他人だから。

だとさ…。ふざけるな…！

結局…その日は無理矢理帰らされた…。

…面会に行こう…。

そう思ったのは2日後。

『面会に来たんですが…』

3階の角部屋…。

個室…。

そして…

その個室で彼女は…

コワイ…

私のお世話してくれる…天使でさえコワイ…

他人ひとの笑顔がコワイ…

他人の仕草、呼吸、全てがコワイ…

『……………うっ…ん…』

また…わたし…泣いちゃってる。

他人に迷惑かけてる…。

ゴメンナサイ…

ゴメンナサイ…

ゴメンナサイ…

だからもう…

殴らないで…

入れなかった。

彼女の…泣き崩れる…他人を信じない瞳…。

冷たい瞳…と言つより

重い瞳…

病院だからとかじゃない…

彼女の瞳から放たれる…孤独、絶望の空気…

耐えれなかった。

…くそっ！

オレはバカじゃないか…！？

大切な人…奈落の底…助けられない自分…情けない…。

何か…出来ること…

何か…

彼が来てた事は知っていたの。

本当は気づいてた…。

彼の…あの姿も。

ゴメンナサイ…

貴方は本当に優しいのに…わたし…

こんな自分が嫌い…。

治したい…

お願い…誰か…私を治して…

ダメだ…また…誰かに頼ってる…

うん…。そうだね…。ん…決めた…。

…オレ。逃げてるよな…？

大切な人が大変なのに…

でもどうすりゃ良い…？

彼女の闇に踏み込む…？

彼女の心を壊してしまうんじゃないのか…？

壊れなかったとしても…今のオレの心が彼女の闇を照らせるのか…？

『ああ…！考えるのは止めだ…！』

知らぬ間に叫んだ。

…彼が来た。

あれから2週間ぶり…

ホツとした反面…

コワかった。

何事もなかったかのよう話してくれる優しい彼。

少し救われた気がした。

嬉しかった。

楽しかった。

決断の時…

裏切られてもいい…

私は彼を信じようと決めた。

『でさあ。店長が無茶言うんだよなあ…。バイトの身にもなって欲しいって(笑)』

『あの…。』

初めて彼女から話しかけてきた。

正直…かなり驚いたが…それはまだ軽いものだった。

『ん？どしたの？』

『少し話が…』

ああ…聞くに耐えない…。

彼女の闇は、想像を絶した。

彼女は施設育ちらしい。

理由は父からの虐待。

母は幼い彼女を残したまま蒸発し、その腹いせが全て彼女へ。

虐待は中学2年まで続いたらしく、殴る蹴るは日常茶飯事。

『お前さえ…お前さえいなければ…！』

『ゴミだ！お前は家の恥だ！』

毎日飛び交う罵声。

小学3年生から性的なものも始まったらしい。

彼女はやせ細ったお腹を見せてくれた。

丸い火傷…火傷の後が丸く白い。

タバコだ。しかも一カ所じゃない。

ポコポコの頭蓋骨。

毎日殴られ、蹴られた結果…変形したらしい。

外傷以上に…

心はボロボロだった。

対人恐怖症

情緒不安定

極度の自己嫌悪

オレは…口を開けたまま…ただ…ただ聞いているだけだった。
聞くしか出来なかった。

何度も目を背けたくなった…。

言葉が出ない…。

彼はただただ聞いてくれていた。

時折、涙さえみせていた…。

嬉しかった…

まだ、こんな私のために…泣いてくれるヒトがいるなんて…。

この人は逃げなかった。

ひどい辛い話…

けど…逃げなかった。

この人を信じて良かった。

『…ッ！』

彼の手が触れた…

…???

いつもみたいにならな...？

手が震えない...？

身体が震えない...？

身体が熱くならない...？

手を握っていた...

...無意識。

...あれ...？

彼女の様子がおかしい...

小さな口がポカンっと開いている...

...!!!?

クスツ...

笑っている。

見たことのない...とても可愛い笑顔。

笑うとくしゃりとつぶれる目。

小さな顔の小さなえくぼ。

可愛い…
すごく可愛い…。

何だろう…さっきまでの辛い話の空気が一掃された。

部屋には、向日葵が咲いたような暖かく爽やかな空気。

さっきまで…氷が、光のみ残り太陽になった。

ああ…恥ずかしいとえだな。比喻は苦手なんだ。

そんなことはどうでもいい。

何故彼女は笑ったんだろう？

そうだな…今は触れないでおくか。

あっ…彼…ポカンってしてる。

目が点になっちゃってる（笑）。

『この子…何で急に笑いだした！??』って顔に書いてある。

『あのね。私…男の人に触られると身体が震えだすの。でもね…さつき貴方の手が当たったでしょ?』

『…震えてない…?』

彼の開いたままの口が動いた。

『そう…。だから…おかしくて…笑ってたの…』

ダメ…笑いが止まらないんだけど…

初めてこんなに笑ったかも…。

『退院おめでとう。』

彼女は全て良くなって退院した。

『ユウ君！』

ああ…恥ずかしながら『ユウ君』と呼ばれている。

照れくさいな…。

ああ…何であの時彼女は倒れたのかは、結局知らずじまいだったな。

ああ…わかっている。聞かない方が良くこともあるんだよね？

コンビニの名物少女…

今じゃオレの大切な人か…

…ん？

何か忘れてる…

オレはバカだ！

大バカだ！！

ていうか…

間抜けだな…

『そっいや…君の名前…まだ知らなかったな。』

『私の名前…？』

『ああ…そっいやずっと知らんと居たなあと思ってた。』

『私は…』

現在・過去・未来（後書き）

虐待について、すこしでも知っていただきたく書きました。よくわからなく、見にくい小説ですが：少しでも皆様に虐待で受ける、『心身の傷』を知っていただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5098d/>

past of layer

2011年1月23日02時56分発行